日本語学（概論）　　髙山 林太郎

授業概要

日本語学（概論）では、慣れ親しんだ現代日本語を中心に、古語や方言なども題材としつつ、それらを科学的・客観的な視点から分析する普遍的な言語学の知識・思考方法を学ぶための、基礎を作ることを目的とする。文学を学び論ずるうえでも、言語学の基礎的なものの考え方をおろそかにすることはできない。音響学、音声学・音韻論（セグメントおよびアクセント・イントネーション）、形態論、統語論、意味論、語用論、記号論、文字論、語彙論について広く浅く講義する。※「セグメント」は子音・半母音・母音のこと。

授業計画

第 1 回	ガイダンス（音声の物理学的基盤とコミュニケーションのプロセスについての概説）
第 2 回	音声学・音韻論（セグメントと知的意味・情的意味の関係）①
第 3 回	音声学・音韻論（セグメントと知的意味・情的意味の関係）②
第 4 回	音声学・音韻論（アクセントと知的意味の関係）
第 5 回	音声学・音韻論（イントネーションと情的意味の関係）
第 6 回	音声学・音韻論（同化、異化、異音、声門破裂音、音節、等時性、無声化など）
第 7 回	形態論（セグメント・アクセントが意味を持つプロセス）①
第 8 回	形態論（セグメント・アクセントが意味を持つプロセス）②
第 9 回	統語論・意味論・語用論（命題とモダリティから構成される文についての概説）
第 10 回	記号論（ソシュール、パース、チョムスキーらの基礎的概念）①
第 11 回	記号論（ソシュール、パース、チョムスキーらの基礎的概念）②
第 12 回	記号論（ソシュール、パース、チョムスキーらの基礎的概念）③
第 13 回	文字論・語彙論（漢字、万葉仮名、仮名、アルファベット、数字、語彙、語種など）
第 14 回	まとめ①
第 15 回	まとめ②
第 16 回	期末試験（筆記試験）

到達目標

主に日本語を題材にして言語学についての基礎的な知識・思考方法を学ぶことで、人間と言語との係りや、コミュニケーションの仕組みについて、科学的・客観的・国際的に理解できるようになることを目標とする。現代日本語の音声を中心としつつ、古語・方言の音声をも理解できるように、世界の言語に見られる多様な音声の一部も紹介していく。

履修上の注意

欠席して講師の発音を聞くことなく授業資料だけを読んでも発音を十分に理解することはできない。また、授業資料の文章は簡潔に書いてあるので、講師の口頭での解説を聞かなければ理解できない恐れがある。

予習・復習

随時、レポート課題などを出す。その課題に予習・復習の効果がある。

評価方法

レポート課題３０％、受講態度３０％、期末試験４０％で総合的に評価する。何らかの事情により試験中止の場合はレポート課題５０％、受講態度５０％で評価する。欠席は授業回数の３分の２未満と決まっている。遅刻は３回につき欠席１回で数える。

テキスト

教科書は使用しない。その都度、授業資料を配付するので、資料をなくさないように管理し、毎回持って来る資料は忘れずに持って来ること。